

桜大臣の姫君

最終回

森谷明子

川野隆司 絵



〈前号のあらすじ〉

那珂姫は、桜大臣屋敷から桜女御の御殿に戻った。権力争いから脱落した桜大臣家。が、姉の子二の宮を守らなければならぬ。桜大臣屋敷で那珂姫たちを待っていたのは、なんと帝。姉の出家を報告せねばと思うが、帝は経緯をすべて把握していた。帝は、那珂姫に皇太子との結婚を仄めかす。皇太子に好意を寄せる尚侍の本心を確認した那珂姫は、仲を取り持とうとするが……。

桜女御の広間で

「もえぎ、このかっこうでおかしいところはなにかしら」

「ええ、おきれいですよ。でも、明雅様や皇太子様にお会いする時でさえかまわなくせに、どうして私の母が来るだけでこんなに気を張っておめかしされるのです？」

「今日だけはいつもとちがうのよ。初野がお説教を始める